

# 質問通告・内容一覧表

議会傍聴者用

質問順	質問議員	通告の標題・内容
1	狩野正雄	<p>◎ 野生動物の被害対策</p> <p>全国各地で熊などの野生動物による被害が多発している。</p> <p>町内における最近の被害状況や捕獲（駆除）状況、注意すべき点や遭遇時の情報伝達について質問する。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 パークゴルフ場でキツネによるボールの強奪被害が連日発生し、コース内の侵入防止対策を求める声が寄せられている。外周に侵入防止ネットを張る考えは。キツネはエキノコックス病を媒介することもあるため、駆虫剤入りの餌や捕獲器の設置も必要では。</li> <li>2 野生動物の出没状況や捕獲（駆除）の実績、褒章金は。熊などに遭遇した時の情報伝達先は。</li> <li>3 ハンターの高齢化や狩猟免許取得者が減少しており、新たに免許を取得する人に対する支援はあるか。狩猟や箱罠などの技術を持つ人を地域おこし協力隊員として募集している自治体もあると聞くが、本町の考えは。</li> </ol>
2	清水浩徳	<p>◎ 災害時における避難所の運営について</p> <p>大規模な地震の発生による避難所は、被災者が一定期間生活を送る場所であるため、避難所を運営するための体制の確立が必要である。</p> <p>被災者自らが避難所の運営に関わり、避難生活における不安解消や、住み慣れない環境の変化による様々な問題に対応し、避難所での個々の役割を明確にして円滑な避難所の運営をしていくため、令和5年2月に「避難所運営マニュアル」が作成された。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 「避難所運営マニュアル」の開設・運営等に関する問題点と対策の検証をどのように実施していくのか。</li> <li>2 避難所が開設されても認知症高齢者、知的・精神障がい児、授乳児等は避難所に行きたくても行けない。避難所外避難者に対する具体的な支援策は。</li> </ol>

質問順	質問議員	通告の標題・内容
3	山口優子	<p><b>◎ 若者のコミュニティづくりの推進・支援についての提案</b></p> <p>わが国では、少子化、未婚化、晩婚化が進んでおり、鹿追町も例外ではない。地域でのつながり、友人がたくさんいることで、町外への転出、人口の社会減も食い止められると思う。</p> <p>町内での知り合いを増やし、横のつながりを持ってもらうことを目的とした事業を提案する。</p> <p>提案1 イベントやお祭り、スポーツ大会で若者のボランティアを募集  提案2 25歳、30歳、35歳の同級生会。  提案3 5団体（役場職員、農協職員、農協青年部、商工会青年部、自衛隊員）若者交流会。  提案4 ピュアモルトクラブハウスを拠点とした若者サロン事業。  提案5 ハンドルキーパー手当・送迎バス・オンデマンドバス。</p> <p>以下、町長に伺う。</p> <p>過去10年の年間結婚組数はどのように推移しているか。  町が行なっている結婚支援事業の効果はどのように考えているか。また、今後新たに計画している結婚支援事業はあるか。  結婚支援事業以外の若者全般に対する支援にどのようなものがあるか。  ピュアモルトクラブや、その他の若者のコミュニティづくりの推進・支援についての考え方は。  上記1～5の提案についてどのように考えているか。</p>
4	金子孝伸	<p><b>◎ 鹿追町独自の少子化対策に関する町の見解</b></p> <p>令和4年度の全国出生数が80万人を割るという現状、鹿追町も同様に、令和4年度の出生数は30人にとどまっている。</p> <p>少子化に伴う児童数の減少が教育環境、具体的には学校の維持にも大きな課題をもたらすと認識する。</p> <p>町全体の学年児童数が40人を下回る状況の中で、現存する学校数や学級数を維持することを含めた教育環境の維持に危機感を抱いている。</p> <p>教員不足もまた深刻な現状であり、良質な教育環境を維持するためには困難な局面にある。</p> <p>以下の二点について質問する。</p> <p>1 現在、鹿追町において子供に対する施策は他の自治体と比べても充実していると認識しているが、更なる少子化への対応や子育て環境の安心・安全な構築に向けた重点的な取り組みや施策についての考えは。  2 児童数の減少に伴う、より良い教育環境に向けた中長期的な対策についての考えは。</p>

